

## 「 耳鼻咽喉科疾患に対するマクロライド療法

### —最近の話題— 」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
先進治療科学専攻 感覚器病学  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室  
教授 黒野 祐一 先生

---

マクロライド療法は慢性副鼻腔炎に有効で、本邦ではマクロライド療法は慢性副鼻腔炎の重要な治療法に位置付けられるに至っている。その作用機序としては、粘液分泌や炎症性サイトカイン、炎症細胞の遊走や活性化を抑制することが知られており、これらは鼻汁量の減少や鼻粘膜腫脹の改善といった臨床効果とも一致する。一方、欧米ではマクロライド療法が抗菌活性以外の作用機序によってもたらされることは理解されているものの、必ずしもその評価は高いものではなく、本療法の無効例があることが指摘されている。

今後のマクロライド療法のさらなる普及のためには、新たな作用機序を見出し、それに基づく新たな対象疾患を開拓する一方で、本治療法が無効とされる慢性副鼻腔炎への対処方法を確立することが必要となる。例えば中鼻道閉塞や鼻茸を合併する症例であれば手術を併用することで対応可能であるが、マクロライド療法の効果が乏しいとされてきたアレルギー性鼻炎合併例は成人のみならず小児でも多くみられる。しかし、このような症例でも抗ヒスタミン薬を併用することで、鼻症状のみならず画像所見でも有意な改善の報告があり、その効果は単に相加的なものではなく、マクロライドの新たな作用による相乗効果であることが推測される。また、粘液溶解薬の併用によってもマクロライドの効果が増強される。

本講演ではマクロライド療法の作用機序をまとめ直し、さらに他剤との併用による効果増強の可能性について述べてみたい。